

頸動脈解離における抗血栓薬(Draft翻訳*)

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 1 April 2003

背景: 頭蓋外内頸動脈解離は閉塞を導くことがあり、虚血性脳卒中の原因になることがある。脳卒中全体のうち約2.5%では、脳卒中の機序として頭蓋外内頸動脈解離が基礎となり、45歳未満の患者では脳卒中の原因として2番目に多い。頭蓋外内頸動脈解離では抗凝固薬または抗血小板薬により動脈血栓症が予防されることもある一方、出血が増加するためにそのベネフィットが相殺されるおそれもある。

目的: 抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)が、頭蓋外内頸動脈解離を有する患者の治療に有効かつ安全であるか否かについて判定し、どちらの治療が優れているか判定すること。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索:2002年10月3日)を検索した。また、Cochrane Central Register of Controlled Trials(Cochrane Library、2002年2版)、MEDLINE(1966年1月~2002年5月)、EMBASE(1980年1月~2002年6月)を包括的に検索し、関連する全ての文献にその他の適切な試験があるか否かをチェックした。

選択基準: 頭蓋外内頸動脈解離の治療における抗凝固薬または抗血小板薬の有効性について評価されたランダム化比較試験、臨床比較試験、症例集積(試験)などの非ランダム化試験であり、少なくとも4名以上の患者を対象とした何らかの抗血栓薬投与について報告されている試験を適格とした。2名のレビューアが基準を満たす全ての試験から独立にデータを抽出した。不一致があった場合は討議により解決した。

データ収集分析: 主要評価項目に関するデータをシステマティックに抽出した。主要評価項目は、死亡(全死因)、死亡または障害とした。二次的評価項目は、脳卒中初発、脳卒中再発、追跡時に報告された何らかの脳卒中、頭蓋外出血、頭蓋内出血とした。第一選択治療を分析の対象とした。

主な結果: ランダム化試験は抽出されなかった。抗血小板薬または抗凝固薬と対照との信頼性のある比較は入手されなかった。327名の患者(抗血小板薬または抗凝固薬のいずれかを投与)が含まれる26件の登録試験を満たす試験を比較分析に登録した。抗血小板薬と抗凝固薬を比較した死亡のオッズには有意差が認められなかった(Petoのオッズ比(Peto OR)1.59、95% CI 0.22~11.59)。死亡または障害に至るオッズにも有意差が認められなかった(Peto OR 1.94、95% CI 0.76~4.91)。抗凝固薬投与患者では頭蓋内出血がほとんど報告されておらず(0.5%)、抗血小板薬投与患者では全く報告されていなかった。

レビューア見解: 抗血小板薬または抗凝固薬のいずれかと対照が比較されているランダム化試験はなかった。従って、頭蓋外内頸動脈解離の治療にこのような薬剤をルーチンで使用する事が支持されるエビデンスは得られていない。また、抗凝固薬と抗血小板薬を直接比較しているランダム化試験もなく、既報の非ランダム化試験から両薬剤間にて有意差があるとのエビデンスは示されなかった。同条件で各投与群に1400名以上の患者が登録されたランダム化試験の必要性が示唆される。

Citation: Lyrer P, Engelter S. Antithrombotic drugs for carotid artery dissection. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2003, Issue 3. Art. No.: CD000255. DOI: 10.1002/14651858.CD000255.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Stroke

* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。